

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/3)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	教授	氏名	依田博
学歴	昭和43年 3月 成蹊大学政治経済学部政治学科 卒業 昭和45年 3月 京都大学大学院法学研究科修士課程政治学専攻 修了 昭和49年10月 京都大学大学院法学研究科博士課程政治学専攻 単位取得満期退学				
学位	昭和45年 3月 法学修士 (京都大学)				
専門分野	政治学 (比較政治論)				
専門資格					
所属学会	昭和46年10月 日本政治学会 昭和55年10月 社会・経済システム学会 平成 9年 4月 日本公共政策学会 平成23年 5月 日本初年次教育学会				
受賞	平成19年10月 平成19年度地方教育行政功労者文部科学大臣表彰				
担当授業科目	学 部 紛争と解決、総合社会学演習 ・ 、現代社会研究演習 、総合社会学とキャリア構築、初年次演習【総社クラス】、現代社会研究演習 ~ 、政策過程論、ガバナンス論、地球市民論				
論文指導	論文指導担当[主査] (卒論: 1名) 論文審査担当[副査] (卒論: 0名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	紛争と解決	講義・演習・実習・実験	春・秋	8名	
	1 授業の概要: 軍事力は平和を破壊する要因であると考えられがちである。平和を破壊するのは、軍事力そのものだけではなく、別の要因、たとえば貧困、民族、宗教などの要因も作用している。授業では、破壊された平和の再構築、すなわち平和構築・維持の意義・方法を学習し、その限界を理解する。60分の講義と30分の課題取り組みは例年通り。				
	教育活動の振り返り 教育活動の成果: 当然のように、毎回出席する学生は、問題の理解力と文章力が著しく高まった。 今後の課題: 他の楽勝科目の撲滅なくしては、しっかりと勉強させようとする科目は閑古鳥がなく。				
科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数		
政策過程論	講義・演習・実習・実験	春・秋	7名		
2 授業の概要: 公共政策の本質と、現代日本政治(国と地方)の特徴と問題点を、争点・アジェンダ形成 政策形成 執行 評価という一連の流れの諸国面から詳しく理解する。さらに、「なぜ」という問いから出発して、論理的かつ実証的に事象を分析する力量を磨く。 受講生が担当者の研究室のノートPC台数内であったために、研究室でPCを使いながら、質疑応答、課題取り組みなど学生と教員との双方向の授業を実施。					
教育活動の振り返り 教育活動の成果: 当然のように、毎回出席する学生は、問題の理解力、議論力、そして文章力が著しく高まった。 今後の課題: 他の楽勝科目の撲滅なくしては、しっかりと勉強させようとする科目は閑古鳥がなく。					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/3)

<p>F D 活 動 ・ 教 育 実 績</p>	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績          大学コンソーシアム京都主催の第20回FDフォーラム第10分科会「知識と思考のクラウド化にどう対応するか」で、「体験的ゼミ教育・卒論指導」の報告を行った(2015年3月1日)。内容的には、学習レディネスの低い学生がアカデミック・エッセーを書くための方法を解説した。</p> <p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等          大学コンソーシアム京都が主催する「京都から発信する政策研究交流大会」に出場する学生の研究活動支援を行った(2014年12月7日)。同じく支援を行っている他の教員の学生に費やす膨大な時間は(通常の演習に加えて、週1回以上の演習補講ならびに9月以降はほぼ週2回以上の補講)「優秀な学生を集めているので指導が楽である」といった他の教員による評価があるなど、冷静な評価が行われていないのが残念である。課題は、学生の自主的な研究活動を刺激する教育手法を教員が共有することであろう。</p>
<p>H26 年度 研究課題</p>	<p>1. 内閣総理大臣の政策行動(幣原喜重郎～)          2. ガバナンス概念の検討</p>
<p>平成 二六 (2014) 年度 の 研 究 活 動 の 概 要</p>	<p>本年度は、「ガバナンス概念の検討」に多くのエネルギーを注いだ。とりわけ、北海道・東北地方において、「中央」に依存しないで地方創生戦略を模索する地域社会に関する調査を行った。結論としては、地方創生のカギは、人・組織・資金である。とりわけ、知恵も何もかも中央に依存する地域社会は消滅の過程をたどり、自ら知恵をだし、地域社会のために身を粉にして働く人材に恵まれた地域社会は創生する。この調査の結果、本学がもつ教育プログラムは、このような人材を養成する目的に十分に対応できるものであることが明らかとなった。後述:(調査活動)</p>
<p>平成 二六 (2014) 年度 の 主 な 研 究 成 果 等</p>	<p>(著書)          (論文)          (学会報告、学会活動)          (その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>(調査活動)          平成26年8・9月 「中央」に依存しないで地方創生戦略を模索する地域社会に関する調査、於：北海道・東北地方 鷹栖町、猿払村・浜頓別、歌登、清里町、中札内村、新冠町、たなせ町(以上、北海道) 鶴田町(青森県) 角館(秋田県) 鶴岡市、長井市、山形市(以上、山形県) 村上市、燕市(以上、新潟県) 桧枝岐村(福島県) 石岡市(茨城県) 富津市・金谷(千葉県) 静岡市(静岡県)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等)          (学内活動)          人事委員会委員、就職委員会委員、総合社会学部研究報告編集委員会委員</p>
<p>平成 二六 (2014) 年度 の 社 会 に お け る 活 動</p>	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託)          ・「久御山町第7次高齢者保健福祉計画」策定委員「平25.12より平27.3まで」          ・「久御山町いじめ問題対策調査委員会」委員長「平26.10より」</p> <p>(小中高との連携授業の講師)          平成26年 6月 京都文教高等学校ALP(3年生春学期)「物語作成力向上講座」、於：同校          平成26年10月 京都文教中学校・高等学校「キャリアプログラム」、於：同校</p> <p>(その他)          平成26年6・7月 平成26年度京都文教公開講座「いきいき健やか講座」、「党首討論にみる日本の政治家の議論力～美辞麗句、巧言令色鮮ないかな仁、劇場型、使命型?～」、於：京都文教サテライトキャンパス伏見大手筋</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/3)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(著書)
	(論文)
	(学会報告、学会活動)
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	1. 「アカデミック・エッセー ライティングのコツ」、単著、平成24年3月、京都文教大学 人間学部研究報告第14集 (pp.15-45) 2. 話題提供「総合社会学部における初年次教育の方向性と連携した取り組みについて ~学習レディネスを高める視点から~」、単独、平成25年3月、産学協働教育推進委員会主催 第4回就業力育成支援勉強会「初年次関連科目における連携 ~高等教育における学習に必要な基礎力を涵養するために~」、京都文教大学
(調査活動)	
(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)	
(学内活動)	
平成23年 4月 人権委員会委員「平24.3まで」 国際交流委員会委員「平24.3まで」 図書館委員会委員「平24.3まで」	
平成24年 4月 人間学研究所長「平26.3まで」 大学運営会議委員「平26.3まで」 自己点検・評価委員会委員「平26.3まで」 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平26.3まで」 学部コース主任「平25.3まで」	
平成25年 4月 人事委員会委員「現在に至る」	
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度 社会における活動	(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託)
	平成22年11月 久御山町 民生部長寿健康課 久御山町高齢者保健福祉委員会委員 (久御山町第6次高齢者保健福祉計画作策定委員)「平24.3まで」
	平成23年 2月 久御山町 総務部企画財政課 久御山町行政評価外部評価委員会委員長 「平23.3まで」
	平成24年 9月 久御山町 民生部長寿健康課 御山町介護老人保健施設整備・運営事業予定者選定委員会委員「平24.12まで」
	平成24年10月 久御山町 総務部企画財政課 久御山町行政改革推進委員会委員長「平25.3まで」
	平成25年12月 「久御山町第7次高齢者保健福祉計画」策定委員「現在に至る (平27.3まで)」
	(その他)
平成25年5・6月 平成25年度京都文教公開講座「いきいき健やか講座」、「歴代首相の通信簿 ~なぜ今の首相は頼りなく見えるのか~」、於:京都文教サテライトキャンパス伏見大手筋	